



因数分解

定義. ● 因数分解とは、ひとつの整式を整式の積の形で表す事をいう。

- 積を構成している各式を、もとの整式の因数という。
- 共通因数とは、整式のすべての項に含まれる因数の事をいう。

例. 整式 $3x^2 + 21x + 30$ について、共通因数は3であるので、 $3x^2 + 21x + 30 = 3(x^2 + 7x + 10)$ と変形できる。(この操作を共通因数をくくりだすという。) さらに、 $x^2 + 7x + 10 = (x + 2)(x + 5)$ が成り立つので、 $3x^2 + 21x + 30$ は、 $3(x + 2)(x + 5)$ と因数分解できる。よって、 $3x^2 + 21x + 30$ の因数は、 3 、 $x + 2$ 、 $x + 5$ である。

因数分解の公式

- $a^2 + 2ab + b^2 = (a + b)^2$
 $a^3 + 3a^2b + 3ab^2 + b^3 = (a + b)^3$
- $a^2 - b^2 = (a + b)(a - b)$
- $acx^2 + (ad + bc)x + bd = (ax + b)(cx + d)$
- $a^3 + b^3 = (a + b)(a^2 - ab + b^2)$

因数分解は、展開の逆の計算である。よって、因数分解の公式は、展開公式から導く事ができる。

- b に $-b$ を代入した形、
 - $a^2 - 2ab + b^2 = (a - b)^2$
 - $a^3 - 3a^2b + 3ab^2 - b^3 = (a - b)^3$

も覚えておくと良い。

- $a = c = 1$ の場合は、もっと簡単になる。

$$x^2 + (b + d)x + bd = (x + b)(x + d)$$

- b に $-b$ を代入した形も覚えておくと良い。

$$a^3 - b^3 = (a - b)(a^2 + ab + b^2)$$

因数分解は、展開とは違い必ずできるとは限らない。また因数分解できる場合においても、効率良く計算を進めるために、次の基本方針を理解しておく事が大切である。

因数分解の基本方針

- 共通因数をくくりだす。
- 公式を利用数する。
 - 繰り返し現れる式はまとめる (置き換える)。
 - 次数が最低の文字について整理する。

原則 : 因数分解はできるところまで分解する。

定義. 対称式とは、複数の文字を含む整式であって、どの二つの文字を入れ替えても、もとの式と同じになるようなものの事をいう。

例. $a^2 + b^2$, $a^3 - 5ab + b^3$, $a^2b^2c + a^2bc^2 + ab^2c^2$, abc などは対称式である。

対称式のうち、次のようなものを基本対称式と呼ぶ。

- a, b の基本対称式は, $a + b$, ab
- a, b, c の基本対称式は, $a + b + c$, $ab + bc + ca$, abc

対称式と基本対称式に関しては、次の事実が知られている。

対称式は、基本対称式で表す事ができる。

例. 次の等式は覚えておくと良い。

- $a^2 + b^2 = (a + b)^2 - 2ab$
- $a^3 + b^3 = (a + b)^3 - 3ab(a + b)$
- $a^2 + b^2 + c^2 = (a + b + c)^2 - 2(ab + bc + ca)$
- $a^3 + b^3 + c^3 = (a + b + c)^3 - 3(a + b + c)(ab + bc + ca) + 3abc$

因数分解をするにあたって次の事実を覚えておくと便利である。

a, b, c の対称式は, $a + b$, $b + c$, $c + a$ のうちひとつが因数なら, 他の二つも因数である。

定義. 交代式とは、複数の文字を含む整式であって、どの二つの文字を入れ替えても、もとの式と符号だけが変わるようなものの事をいう。

例. $a^2 - b^2$, $a^2(b - c) + b^2(c - a) + c^2(a - b) = -(a - b)(b - c)(c - a)$ などは交代式である。

因数分解をするにあたって次の事実を覚えておくと便利である。

- a, b の交代式は, $a - b$ を因数にもつ。
- a, b, c の対称式は, $(a - b)(b - c)(c - a)$ を因数にもつ。

定義. 複2次式とは、 $ax^4 + bx^2 + c$ の形の整式の事をいう。

複2次式の $x^2 = X$ とおいて、 X の2次式として、 $aX^2 + bX + c$ を因数分解するのが基本であるが、普通の2次式とは違い、次のように「平方の差」の公式を用いて因数分解する事ができることもある。

例.

$$\begin{aligned}x^4 + x^2 + 1 &= X^2 + X + 1 && (x^2 = X \text{ とおいた.}) \\ &= (X + 1)^2 - X \\ &= (x^2 + 1)^2 - x^2 && (A^2 - B^2 = (A + B)(A - B) \text{ を用いる.}) \\ &= (x^2 + 1 + x)(x^2 + 1 - x)\end{aligned}$$